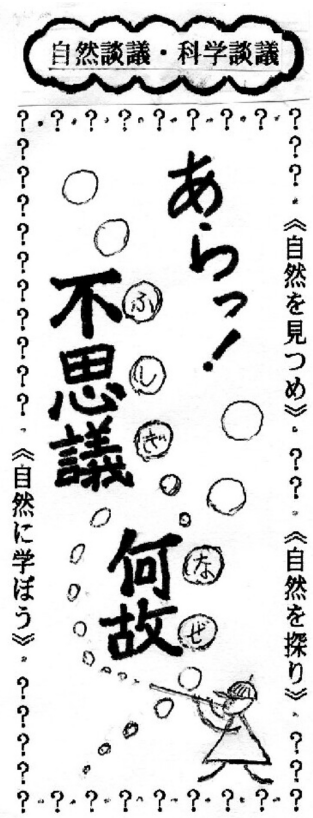

樹上の怪、ヤドリギ

落葉の季節がやってきた。落葉樹は枯れ木のようだ。
その枯れ木に、何かこんもりした緑色の塊があちこちに見える。高原で良くみられる現象だ。
一体、何だろう。ある人は鳥の巣だと言う。果たしてそうだろうか。今月は、この樹上の怪を探ってみよう。

写真を見てください。葉の落ちた落葉樹に、緑色の大きな塊が、いくつも写っている。写真①②は富士山麓の山中湖畔、写真③は八ヶ岳高原の美しの森だ。鳥の巣にも見える。何か変わった植物にも見える。
一体、何だろう。

養分を盗む植物

高原に行くと、秋から冬によく見られる。鳥の巣ではありません。「ヤドリギ」というれっきとした植物である。
ヤドリギは、ケヤキ、エノキ、ブナ、ミズナラなどの落葉樹の大木に寄生する。種子がこの大木の幹で芽を出し、根が幹に食い込んで、栄養や水分を盗み取ってしまうのだ。悪い植物だね。
大きさ40、50㎝。丸みを帯びこんもりした常緑の小低木だ。枝は緑色で丸みを帯び、平べったくて滑らかだ。更に、枝は2股または3股に分かれて、その先に葉っぱが対生している。肉厚で滑らか、ちょうどモッコクの葉のようだ。
花は黄色く、2、3月頃葉の脇に咲き、やがて実をつける。7㎜位の半透明の球形の液果だ。その実は、11月頃淡黄色に熟する。果肉は粘りが強く中に種子が1個ある。この粘りが繁殖の曲者なのだ。

野鳥が種子の運び役

野鳥はこの実が大好きだ。あっちこっちと食べ歩き、木の幹に糞をしたり種子をこすり付けたりする。粘り気のある種子はそこで発芽し、養分や水分は宿主の樹幹から盗み取り、生長していくのである。野鳥が運搬の役を果たし、自然が植木職人の役を果たしているのである。ヤドリギは、こうして樹木から樹木へと繁殖していき、更に野鳥を呼び寄せるのである。

夏の間は目立たない

だが夏の間は、誰もあまり気付かない。ミズナラなど宿主の枝や葉っぱに隠れて見えない。それが秋になり落葉すると、一気に目に付くようになるのだ。写真がその一例だ。
一口にヤドリギといっても、何種類かある。実が赤みを帯びたものをアカミヤドリギと呼んでいる。半世紀前、私が白馬高原の八方尾根で採取したのは、アカミヤドリギだった。珍しいので、家まで持ち帰った記憶がある。
探せば、南畑にもあるかもしれない。誰か探してみませんか？

絵・文・題字
渋谷　一夫

（2015年11月号より再掲載）

写真①

写真②

写真③